



支部活動の紹介

水コン協関東支部

第33回下水道事業座談会報告

前関東支部長 菅 伸彦



1. はじめに

関東支部では毎年1月に、関東圏の1都8県の下水道部局の幹部の方々並びに日本下水道事業団及び国土交通省の方々を招いて意見交換を行う「下水道事業座談会」を開催しております。ここでは令和元年度で33回を数えた座談会の概要についてご報告します。

開催日時：令和2年1月31日（金）14時～17時

出席者：

（事業体・国側）

茨城県土木部都市局下水道課、栃木県土木整備部都市整備課下水道室、群馬県土木整備部下水環境課、埼玉県下水道局下水道事業課、千葉県土木整備部都市整備局下水道課、東京都下水道局計画調整部、神奈川県土木整備局河川下水道部下水道課、山梨県土木整備部都市計画課下水道室、長野県環境部生活排水課、日本下水道事業団事業統括部、同 東日本設計センター、〔オブザーバー〕関東地方整備局建政部

（協会側）

関東支部長、副支部長2名、幹事1名、総務委員長、下水道委員長、下水道副委員長、専務理事、常務理事

概要：事前に提示した意見交換テーマと主要トピックに沿って意見交換を行いました。

〔意見交換テーマ〕

各事業体が抱える課題及びその取組事例について

（主要トピック）広域化・共同化、未普及対策、老朽化対策、災害対策、ストックマネジメント、人材の確保・育成、PPP/PFI、省エネ・創エネ、不明水対策、受注者への配慮、その他

2. 参加者との意見交換

●最新行政情報説明

初めに、関東地方整備局より令和2年度の下水道事業予算の概要についてご説明をいただきました。

続いて各事業体の取り組みに関する意見交換に入りました。各トピックに関する主なご発言は次の通りです。



写真-1

●広域化・共同化

- ・し尿処理場の扱いが課題と考えている。老朽化が進んでいるはずだが、廃止となるとどこにどう取り込むか、し尿を希釈して下水道に投入する場合、現有能力では受入の限界があるなど、戦略的に取り組む必要があり、下水道に取り入れるタイミングが難しい。
- ・広域化は早くから進めているが、共同化がなかなかまくいかない。複数の市町が集まると利害調整が難しく、今回は小規模の範囲にとどまり、大規模に考えるのは次の改築更新のタイミングになるかと思う。
- ・地域性を考慮してブロック分けをして勉強会を開催しているが、優先課題の不一致、既存の更新計画と広域化計画との整合、地理的条件、事務量の差異、などの課題が挙がっている。
- ・ハード面、ソフト面で計六つのテーマに分けて部会を立ち上げ検討を進めているが、それぞれのテーマをどう具現化していくかが難しい。
- ・外郭団体を活用して処理場の共同管理を行うことにより、コスト削減や技術者不足の解消を図っている。複数の処理場を広域的に管理したり、公共下水道と農業集落排水の処理場を一元管理したりしている。一元管理については市町村の要望が強い。管渠の管理体制強化が課題。

●災害対策

- ・豪雨などによる被害を受ける頻度が低かったため、下水道BCPは地震しか想定しておらず、台風19号では想定外の水位上昇があった。今後のBCPの改訂においては、下水道施設の浸水対策にあたり今までより大きい外力を想定した耐水対策をやっていく必要性を感じている。
- ・台風の被害により多くの下水道施設が停電の影響を受け機能停止が発生、最長では11日間に及んだ。自家発電設備がない施設では、電源車などの非常用電源の確保にあたり、必要な電力容量などを把握していない市町もあり支援要請に時間を要してしまうなどの課題があった。浸水した施設の場内排水のため国交省にポンプ車を支援していただき、早期の復旧に役立った。
- ・樋門の操作について、台風時に危険で近づけないところがあったため、転落防止策や堤内地側からの遠隔操作など作業員の安全性確保策を検討している。
- ・昨年の台風では被害が広域のかつ重大で、JSやコンサルタントも限界があり支援しきれなかった。下水処理場の災害時支援には、設計を担当した企業が当該施設の状況に通じていることが多く、特定のコンサルタントに対応が集中しがちだが、今後考えていく必要があるのではないか。
- ・大規模災害の時は被災していない地域の通常業務が滞ることにもご理解をいただき、連携して広域的に対応していく必要がある。
- ・資機材の備蓄は維持管理や置き場所など考えても都道府県レベルの対応は難しいと思うが、国にも限界があり、JSが一定の役割を担うべきかと思う。備蓄場所の提供など県の協力も必要であり、広域的な態勢作りを議論する中で幅広い議論が求められる。
- ・今回の被害に際して高揚程水中ポンプの使用を検討したが、機器のサイズが大き過ぎて施設内に投入できず使えなかった。処理場が浸水した場合高揚程水中ポンプが入るのか、設計段階で検討しておかないと資機材の備蓄だけでは不十分。

●老朽化対策・ストックマネジメント

- ・財源の確保に加え、部分的な管更生への補助適用や、大口径管路の管更生の標準歩掛の設定など、更なるコスト縮減対策も必要ではないか。
- ・処理場についてはいきなり大きな問題が生じることはないと思うが、下水管渠については管内の圧送管部分で硫化水素による鉄管の腐食に起因した漏水や、台風19号の際に漏水による歩道の陥没などの事例があった。点検・調査が困難な箇所計画的な対応が課題。
- ・大口径で水深・流速もある管の更生が難しい。上流のマンホールでポンプアップして管更生ができる水位まで下げる、という検討を進めている。

- ・普及率が低い市町村は10年概成に向けた整備に注力しており、SM計画に手が回っていない状況。県で計画策定の勉強会を開催するなど支援を進めている。

●不明水対策

- ・過去にモデル地区を抽出し、実施した雨天時浸入水調査では、コンクリート製の宅内枘の経年劣化や排水設備の不等沈下など、管理の不十分が概ねの原因であることが判明しているが、個人の施設であることから修繕などの実施が困難な状況。抜本的な対策は雨水管の整備だが、未普及対策を重視し汚水管の整備を優先している状況。
- ・汚水整備は概成を控え、統廃合もあって水処理能力の余裕が減り、気候変動の影響も踏まえると、即効性のある対策を早期に始めないと未処理水の流出事故が懸念される。またコミュニティプラントや農業集落排水でも不明水が多いので、対策を施さないと広域化も進まない。

●受注者への配慮

- ・県ではウィークリースタンス実施要領を制定し、受注者間のルールを定め、計画的に業務を履行しつつ業務環境を改善することで、設計業務などの品質を確保する取り組みを進めている。
- ・生産性向上に向けて、繁忙期となりがちな年度末に施行時期が偏らないよう準準化を進めるとともに、重複する書類の削減やメール活用による書類提出などを行っている。
- ・業務の効率化や時短を目的にコンサルタントとの打合せにおいてWeb会議システムの運用を進めている。特に緊急を要する打合せや全体会議を補完する職種別の打合せなどでの活用が有効であると考え、積極的な活用への周知を図っているところ。

●人材の確保・育成

- ・施設整備が概成して職員数が減少した上に、ベテラン職員の退職や経験者の定期異動などにより専門職員、特に機械・電気担当者が不足し、これまで培った知見・技術の継承が課題となっている。
- ・職員の若返りが急速に進み、教える人がなかなかいない状況。技術伝承のための会議体を作り検討を進めており、退職後の再任用職員に技術継承の担当を割り当て、各事務所の巡回指導などを行っている。

●協会の取組み説明

最後に、意見交換テーマに関連した当協会の取り組みとして「災害対応」「人材の確保・育成」の概要と、当協会と有志議員との下水道全般に関する勉強会の概要をご紹介します、会は幕を閉じました。



写真－2

3. おわりに

日々ご多忙な各都県の下水道事業を主管する皆様の貴重なお時間を頂戴し、毎年、当座談会にご出席いただいております。当座談会では、限られた時間の中でご出席者の皆様にとりましても、有意義で活発な意見交換の場となりますよう、それぞれの事業体の抱える課題やご意見等に関する要旨を事前提出していただき、出席者で共有した上で議事進行しました。今回も、全ての出席者の皆様から活発な発言が飛び交い、盛況を収めることとなりました。

また座談会終了後、ご都合のついた出席者の方に立食

での懇親会にご参加頂きました。

この座談会の進行を担当して6回目となりましたが、座談会終了後の出席者の皆様から事後アンケートにもご協力頂き、当協会にとっても様々な気づきを得ました。

不明水対策、広域化・共同化、浸水対策、老朽化対策、人材の確保・育成などのトピックなどについて、各事業体における取り組み事例や課題等の意見交換に多くの時間を割きましたが、当協会会員企業における先端的な取り組みや経験事例など紹介できないかのご要望がありました。今後の課題としたいと考えております。

幸いなことに、本座談会は新型コロナウイルスの感染が認知される前に終了しました。コロナ禍に見舞われたことによる社会・経済情勢の劇的な変化により、感染対策、オンライン活用、リモートワーク、予想される税収減など、今まで以上の課題が予想されます。

当協会会員企業は、公益社団法人としての自覚を持って、今まで以上に地域社会に貢献する団体として、このような意見交換会の場等も通じて、事業体のニーズをくみ取り、常に事業体のベストパートナーを目指して、様々な形で下水道事業の進化と発展を支援するよう努力してまいります。

最後になりますが、私は、この度6年間務めました関東支部長を退任しました。在任中は、多くの皆様にご大変お世話になりました。ご厚情に深く御礼申し上げます。